長岡市長３期目就任記者会見要旨

日　時：令和６年１０月７日（月）午前１１時から
会　場：アオーレ長岡東棟４階　大会議室

（市長）
　長岡市長選において、再び市民の皆さまから選んでいただき、３期目をスタートすることができました。
　選挙活動中は、長岡市の環境、あるいは日本の政治、経済が難しい状況の中で、いかに市民生活を守っていくか、長岡を発展させていくかということを、市民の皆さんに訴えさせていただきました。
　これから起こる変化や、難しい状況にしっかりと対応し、子育て支援や教育問題への対応、医療福祉を守りながら、長岡の拠点性を高め、そして長岡の明るい未来が開けるよう、その礎を築いていきたいと考えています。
　これからの４年間では、健全財政の堅持や、原発再稼働問題にしっかりと対応し、長岡の拠点性を高めることで、「選ばれるまち長岡」を実現してまいりたいと考えています。
　どうぞよろしくお願いいたします。
（記者）
　今回の選挙は、過去２回の選挙と比べてどうだったか、理由も含めて教えてください。
（市長）
　選挙活動中は、「現職だから大丈夫」という反応が行く先々であり、このような反応は、今までの選挙とは違いました。
　また、今回の投票率の低下を受け、投票所に行ってもらうことの難しさを実感しました。
（記者）
　以前の取材で、「選挙は市民の生の声、思いが直接聞けるため、気づきがある」と話されていましたが、今回の選挙で気づきはありましたか。
（市長）
　中山間地や支所地域を含めた市民の皆さまの生活が、大変厳しくなってきていると改めて感じました。
　人口減少や高齢化など、さまざまな要素があると思いますが、３期目の大きな課題の一つとして、市民生活をいかに下支えし、守っていくかが、基本的な仕事になると感じました。
　また、多くの企業の皆さまから、人手不足などによる事業継続の問題や、後継者問題といった訴えを聞きました。８年前から進めている長岡版イノベーションによる企業の高付加価値化と人材確保、これも大きな課題の一つにしていきたいと感じました。
（記者）
　勝因はさまざまな要素があるかと思いますが、大きな要素として挙げるとすれば何でしょうか。
（市長）
　大きな要素はわかりませんが、生活の問題から産業振興の問題、原発再稼働問題など、さまざまな問題に８年間取り組んできました。その取り組みが市民の皆さまにご理解いただき、今回の結果に繋がったと思っております。
（記者）
　今回の選挙は投票率が下がったと同時に得票数も前回と比べて下がっています。市政への関

心を呼び込めなかったことや、批判票としての受け止めはあるのでしょうか。
（市長）
　批判票が出たことは、重く受け止めております。
　今後、批判票をどのように市政運営の中に取り込むか、そこは大きな課題だと考えております。
（記者）
　選挙期間中、中山間地や支所地域の市民からは具体的にどういった声があって、それに対して今後４年間どう対応していく考えでしょうか。
（市長）
　例えば、栃尾地域では鳥獣被害、特にサルの被害に対する声がありました。サルの捕獲などの対策については、相当力を入れていますが、３期目は今までとは違うレベルで鳥獣対策に取り組む必要があると感じました。
　また、生活交通の問題については、行く先々で訴えがありました。
　しかし、行き交うバスには、ほとんど乗車している方はおらず、公共交通の維持が難しい状況になってきています。
　今後は、公共交通の空白地帯にライドシェアや、市が自ら車を走らせる政策なども考えていきたいと思っております。
（記者）
　これまでの市長選と比べ、得票数は一番少なく、次点の候補者に一番票差を詰められた結果となりましたが、受け止めをお願いします。
（市長）
　長期政権に対する批判、飽きは当然あると思っています。
　有権者の皆さまに立候補した意図が伝わらなかったことと、３期目だから大丈夫だという雰囲気の広がりがあったと思います。そして、世代交代という主張が若い世代に響いたと考えております。
（記者）
　次の４年間の市政運営について、どのようなことをやりたいか教えてください。
（市長）
　国政では新たな首相が誕生しました。今後の選挙の結果を見なければ、国政の進む方向はわかりませんが、石破首相は鳥取県出身で地方創生に力を入れると話しています。
　さまざまな交付金の増額など具体的な考えを出しており、長岡の今後の４年間の市政がどのようにかみ合っていくか、そこがポイントだと思っております。
　しかし、バラマキ型の地方創生はもうできないと思っています。
　今後は、拠点ネットワーク型の地方創生にならざるを得ないと思っており、最も効果的だと考えております。
　長岡の拠点性を高め、そしてネットワークで結ばれた周辺都市、中越圏域の都市、あるいは新潟県全体の都市との繋がりの中で、人口、企業、情報、観光客などの受け皿を長岡にしっかりと作るような戦略、ビジョンで進めていきたいと思います。
　医療福祉から教育、産業イノベーション、子育てなどを戦略的に、そして長岡の拠点性を高めることに焦点を当てながら、長岡が選ばれるまちになるような政策展開をしていきたいと考えております。
（記者）
　今後４年間で中核市を目指すのか、また、プロセスについて教えてください。
（市長）

拠点性を高める、あるいは選ばれるまち長岡にするという戦略の中に、中核市は当然入ってくると思っております。
特に保健所などの新しい機能を獲得することにより、拠点性や将来の発展にどれ程影響があるか、これからもしっかりと検証し、効果が確認できれば目指していきたいと考えております。
（記者）
中核市に関しては、これまでも調査、検討の予算がついていましたが、引き続き調査、検討の段階という理解でよろしいですか。
（市長）
一定の調査はすでに行っておりますので、今後は総括的に検証していきたいと考えております。
（記者）
中核市への移行について、総合戦略に載せるかも含めて検討していくということですか。
（市長）
内部的に検討してはいませんが、テーマとしては重なってくるので、同時並行的な検証、検討になってくると思います。
（記者）
この４年間で優先的に進めていきたい分野と、具体的な政策について教えてください。
（市長）
例えば、今回選挙活動中に、こどもの発達支援についての訴えを多く聞きました。
こういった声にしっかり対応することで、長岡の子育て支援は、今までとは違う展開ができると思います。
こどもの発達支援については、十分取り組めている市町村は少ないと思いますので、長岡モデルを確立することにより、子育てのまちとしての拠点性をアピールできると思っております。
産業振興の面では、この８年間で長岡に首都圏企業や研究機関が十分に入ってきました。２年後に米百俵プレイス東館がオープンし、商工会議所や長岡市の商工部などのさまざまな機関が入った時、企業、研究機関との繋がりが十分に機能するよう、早急に力を入れていきたいと考えております。
８年間取り組んできた長岡版イノベーションの延長ですが、ＤＸやデジタル化、ＡＩの活用などについて、具体的な成果を出したいと考えております。
（記者）
３期目の市政に向かうにあたり、長岡市が抱えている課題について教えてください。
（市長）
一つは東京一極集中が止まらないことです。企業活動についても東京一極集中、あるいは太平洋側一極集中であり、産業政策も地方への展開が薄い時代が続いてきました。その影響から脱するため、８年前から長岡版イノベーションを掲げ、いかに長岡の産業界に力をつけてもらうかということに取り組んでまいりました。
国が地方に目を向けた政策転換をし、これまでの８年間の動きをいかにかみ合わせるかが、今大きな課題だと思っております。
子育て支援も同様で、さまざまな給付や無償化が求められていますが、それは子育てに対する国の支援、社会全体の支援が極めて薄くなっている、あるいは実質賃金が下がっている状況で、子育ての問題がクローズアップされたからだと思っています。
長岡市としては、こどもの発達の問題や引きこもりの問題、不登校の問題などに対し、積極的に取り組んでいきたいと思っております。
農業については、長岡米はブランド力が高く、非常によく売れており、ふるさと納税の返礼

品としてもよく出ております。
　しかし、米価の値上がりが、米作りにどのような影響を与えるかについては、予断を許さない状況です。長岡米のブランド力を上げるため、消費者に受け入れられるお米作りに長岡独自で取り組んでいきたいと思っております。
　国の支援を期待しつつ、そこにいかにかみ合わせていくかという課題と、長岡独自でできることをしっかりと取り組んでいきたいと思っております。
（記者）
　囲み取材の中で長岡市は可能性が大きいまちと表現していましたが、これはどういった点から評価したのでしょうか。
（市長）
　長岡市は非常に個性豊かで、長い歴史文化を持っているまちだと思います。
　例えば、米百俵の精神や偉人などがそれぞれの地域にあり、日本の文化史全体の中ではまだ十分に評価されていないですが、良寛という素晴らしい人物もいます。
　そして長岡花火もとても評価されており、注目度は極めて高いまちであると思っております。長岡の産業、教育、子育てに対する注目度も非常に高く、頑張れば当然評価されるまちであり、吸引力が高いまちだと思っております。
　しかし、これは動かなければ眠ってしまうか、失ってしまうかもしれません。
　私はこの８年間十分にそれを動かしました。前の市長も、その前の市長も日本の中における大きな存在としての長岡を意識しながら市政を進めてきたはずです。この延長線上にしっかりと政策を作れば、長岡の可能性は本当に大きいと考えております。
（記者）
　長岡市民の皆さんに今後の抱負とメッセージをお願いします。
（市長）
　さまざまな断絶、あるいは分裂、対立というものが、非常に大きな時代だと思っております。
　長岡市においても、世代の断絶、男女の断絶、あるいは地域の対立など、心理的にはどうしても拭えないものがあると思っております。
　長岡は合併から 20 年近く経っており、長岡としてまとまっていく、あるいは力を合わせて新しい産業を作っていく、地域社会についても、外から新しい方が来た時には温かく迎え入れる、多様性を基本としながらこの長岡を作っていきたいと思っております。
　ぜひ皆さまで一致団結して、難しい時代、厳しい時代を乗り越え、長岡の明るい未来を作っていきましょう。よろしくお願いいたします。
（記者）
　衆院選について、どのような姿勢で臨まれるのか基本姿勢をお願いいたします。
（市長）
　基本的には現職の方を応援していきたいと考えております。ぜひ長岡のために頑張っていただける方を応援しながら、より良い政治が実現することを願っております。
（記者）
　党派に偏らないという意味ですか。
（市長）
　市民党という立場で対応していきたいと考えております。